

答： 小林 光昭 (山口大 放射線科)

I. 1) 照射野中には腎は含まれていない。

2) 照射前, 後のレノグラムは殆んど変わらず H_2 型で, 経過観察中に強度の変化を示した。

II. Parometruim (B点) にての病巣線量である。照射野は $8 \times 14\text{cm}$, 前後 4 門で尿管を含む。

*

10. “乳糜尿” 患者の Radiolymphogram について

鷺海 良彦 西谷 弘 高橋 信
(広島赤十字病院・広島原爆病院 放射線科)
平田 弘
(同 泌尿器科)

乳糜尿症の Radiolymphographie についてはすでに報告されているが, われわれも 1 例経験したので報告する。

〔症例〕

沢○吾○ 57才 ♂

生活歴：熊本県出身, 戦前 満州にて 8 年間生活する。

病歴：5 年前よりミルク様の尿がみられ, 開業医にて治療をうける。47. 2. 28 当院泌尿器科に受診。乳糜尿症の診断の下, 治療をうける。現在, 症状は緩解する。

Lymphographie 検査時に, 造影剤とともに ^{131}I -リピオドール・ウルトラ・フルイド $200\mu\text{Ci}$ 注入する。直後と 24 時間目に Nuclear Chicago Pho-Gamma III Scintiscamera で骨盤部, 腰部, 肺部のリンパ管, 腺の状態をみた。それぞれのシンチカメラ像を Lymphographie 像と対比して供覧する。

質問： 中西 敬 (山口大)

本症例はリンパ系を圧迫するような腫瘍等はなかったのでしょうか。

答： 鷺海 良彦 (広島日赤病院 放射線科)
原因は不明ですが, 悪性腫瘍はみられませんでした。

*

展示 1. 肝, カラー・シンチグラムの諸相

〈主としてパンチ氏症候群について〉

大久保直躬 高橋 芳邦 川井 正幸
前田 富茂

(国立善通寺病院)

昭和38年より, 当院において臨床診断に応用している肝カラー・シンチグラムについて, パンチ氏症候群, 肝癌などの症例を ^{198}Au による肝シンチグラム・パターン分類表を用いて (久田欣一, 最新核医学, 1967, P 148 引用) 適応症例の分類を試みた。

肝スキャンは, 必ずしも肝の実大を現さないといわれる。この実大像の再現に対する忠実度などについて, 正常肝のデータに比し, 欠損陰影, あるいは, 散布型の RI 分布, 骨髄の出現追跡など, カラー・シンチグラムによって得られたデータのうち, パンチ氏症候群や肝癌などがどのようなパターンを示し, また, その再現能に関して文献的な考察を加えたものである。

報告症例は, 25例であるが, そのうち, パンチ氏症候群については, パターン No. 8 にほとんど集約された定型的なパターンを示したが肝癌などの病類では, 少ない症例にかかわらず, パターン No. 9. 10. 12. 18. 20. と 6 系列に分類された。従って肝癌と読影された同一病名においては異型パターンとして確認されることが多い。さらに読影上転移性肝癌などの適中率はであったとの報告は興味ある問題点でもあろう。

肝カラー・シンチグラム, パターン解析の一方法として, 当院において実施している読影方式の一端を紹介した。

肝カラー・シンチグラム, スキャン条件

装 置：東芝 ML-401-Ⅱ型 Color Scanner

機 構：8 色リボンシフト, 打点式, 0~100% Puls

走査方式：ワン・ウェイ, テーパーコーンコリメータ

走査速度：4~40cm/min 2mm ピッチ

検 出 器：2°φ×2°NaI. シンチレータ 1 個

併 用 RI： ^{198}Au . 300 μCi

*